福岡大学病院　内分泌・糖尿病内科　卒後臨床研修プログラム

Ⅰ．特　徴

専門医の指導のもと、内分泌疾患も糖尿病も数多く、またバランス良く、研修することができる日本でも有数の教育施設である。糖尿病は全身病との認識のもと、全身的な内科管理を心がけている。

Ⅱ．診療科概要

日本内分泌学会、日本糖尿病学会の認定教育施設として専門診療および専門医の育成を行っている。

内分泌代謝領域では、間脳・下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺における各種疾患の専門的診療にあたると同時に肥満、脂質異常症、骨粗鬆症といった生活習慣病診療にも力を注いでいる。甲状腺ではエコーおよび穿刺吸引細胞診の外来を週１回行っている。糖尿病診療では合併症の評価と同時に、合併症の進展予防にも力を注いでいる。特に手術前後の血糖管理については、外科系診療科の主治医と協力しながら積極的に介入して治療にあたっている。大学病院の特色を生かし、各関連科との密接な連携のもと総合的に対応できることが特色である。高血圧の成因としてその頻度の多さが注目されている原発性アルドステロン症は放射線科との連携により副腎静脈サンプリングによる局在診断が可能である。間脳・下垂体疾患は脳外科との強力な連携により術前診断、術後管理を行っている。入院患者の疾患多様性は極めて高く、内分泌疾患と糖尿病の割合もバランスが良く専門医教育には極めて適した施設と言える。

スタッフは、川浪大治(教授)、横溝久(講師)、髙士祐一(講師)、牟田芳実(助教)で構成されている。

Ⅲ．研修目標

医師としての基本的な診療能力や人格を養う。内科医として内分泌・代謝疾患、糖尿病に関する基本的な知識と診療技術を身につける。

1. 内分泌代謝疾患特有の病歴、理学所見を熟知し、ホルモン合成分泌機構、およびホルモン分泌調節機構(フィードバック機構など)、各種ホルモンの種類と作用を理解する。内分泌疾患の診断と治療に必要な知識を修得する。特に機能検査(負荷試験)の原理と方法、解釈についての基本的知識を身につける。ホルモン補充療法の適切な方法を修得する。
2. 糖尿病および合併症の病因、病態を理解し、診断のための病歴、理学所見、検査の実際を修得する。さらに、糖尿病の治療に関する基礎知識と適切な治療法の選択を修得する。インスリンを含めた糖尿病治療薬の作用機序、適応を正しく理解する。糖尿病教室を体験する。

Ⅳ．研修内容

２か月間のローテーション期間中に指導医の指導のもと、研修医一人あたり、常時 4～5 人の患者を受け持つ。また周術期の血糖コントロールを中心に、他科入院中の患者(5～6 名程度)の診療にも参画する。担当患者の検査内容、治療方針は教授回診、病棟カンファレンス等を通じ指導を受け、方針の再確認が行われる。指導体制は初期研修医－主治医－指導医のチームからなる屋根瓦方式をとっており、これらのチームを病棟医長をはじめとする上級医が統括している。

Ⅴ．当科の医療安全等に係る研修医教育

1. 病棟回診・カンファレンス
2. インスリン療法の注意事項
3. 経口糖尿病薬の注意事項
4. 内分泌機能検査(負荷試験)の注意事項